

研究拠点形成事業
平成24年度 実施報告書
B.アジア・アフリカ学術基盤形成型

1. 拠点機関

日本側拠点機関：	人間文化研究機構 国立民族学博物館
(タイ) 拠点機関：	ガンチャナピセーク国立博物館
(ミャンマー) 拠点機関：	ミャンマー文化省国立博物館
(モンゴル) 拠点機関：	モンゴル科学技術大学

2. 研究交流課題名

(和文)： アジアにおける新しい博物館・博物館学創出のための研究交流
(交流分野：博物館学)

(英文)： New Horizons in Asian Museums and Museology
(交流分野：Museology)

研究交流課題に係るホームページ：<http://www.r.minpaku.ac.jp/sonoda/>

3. 採用期間

平成 24年 4月 1日 ～ 平成 27年 3月 31日
(1年度目)

4. 実施体制

日本側実施組織

拠点機関：人間文化研究機構 国立民族学博物館
実施組織代表者(所属部局・職・氏名)：国立民族学博物館・館長・須藤健一
コーディネーター(所属部局・職・氏名)：国立民族学博物館・教授・園田直子
事務組織：国立民族学博物館 管理部 研究協力課 国際協力係、財務課 経理・調達係

相手国側実施組織 (拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。)

(1) 国名：タイ

拠点機関：(英文) Kanchanaphisek National Museum
(和文) ガンチャナピセーク国立博物館

コーディネーター(所属部局・職・氏名)：

(英文) Kanchanaphisek National Museum・Director・INCHERDCHAI Jarunee

協力機関：(英文) Chiang Mai National Museum

(和文) チェンマイ国立博物館

(英文) The Office of the National Museums, Fine Arts Department

(和文) 文化省芸術局博物館課

(英文) Princess Maha Chakri Sirindhorn Anthropology Centre
(和文) シリントーン人類学センター

(2) 国名：ミャンマー

拠点機関：(英文) Myanmar National Museum, Ministry of Culture
(和文) ミャンマー文化省国立博物館

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：
(英文) Myanmar National Museum, Ministry of Culture・
Expertise・NU Mra Zan

協力機関：(英文) Nay Pyidaw National Museum, Ministry of Culture
(和文) ネーピードー文化省国立博物館

(3) 国名：モンゴル

拠点機関：(英文) Mongolian National University of Science and Technology
(和文) モンゴル科学技術大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：
(英文) School of Humanity・Professor・Ichinkhorloo LKHAGVASUREN

協力機関：(英文) Center for Cultural Heritage of Mongolia
(和文) 文化財保存センター

5. 全期間を通じた研究交流目標

博物館は、単に資料を収集・保存・展示するだけの場ではなく、特に途上国においては国家・民族としてのアイデンティティを確立する場であり、また観光振興の要として、教育施設として、あるいは戦乱・災害からの復興の拠点としての役割を持つ。そのため、アジア・アフリカにおける自立的・持続的な博物館活動ならびに人材育成は、緊急の課題となっている。

大学共同利用機関法人・人間文化研究機構・国立民族学博物館は、1994年以来、途上国を対象に、博物館学ならびに博物館の実践的技術を学ぶ研修を実施してきた。研修に参加したアジアの国ぐにのうち、タイ、ミャンマー、モンゴルでは、日本で研修を受けた人びとの間で国内ネットワークが構築されており、自国の文化的・社会的背景に即した博物館学・博物館研究を模索しているところである。

本事業では、国立民族学博物館が今までに培ったネットワークの新たな展開として、若手の人材育成を視野に入れながら、博物館学を中心とした実践的な学術基盤の形成をはかる。タイ、ミャンマー、モンゴルで博物館学の教育研究を行い、博物館活動や人材育成の中核をになう専門家とともに、日本をふくむ4カ国での博物館学の研究成果や博物館活動の事例を共有し、共通の基盤をつくる。そのうえで、従来の受動的立場（「展示される」側）から主体的立場（「展示する」側）へと変容する、現代のアジアにおける博物館の潮流を明らかにし、アジア独自の博物館学・博物館研究のモデルをつくりあげる。

本事業の最終目標は、今までの欧米主流の博物館学・博物館研究とは異なる、アジアの文化的・社会的背景に即した独自の博物館学・博物館研究が創出されることであり、そのうえで、タイ、ミャンマー、モンゴルにおいて自立的・持続的な博物館活動ならびに人材

育成の研究基盤が形成されることである。

6. 平成24年度研究交流目標

平成24年度は、日本とモンゴルにおける博物館・博物館学の比較研究と研究交流を行う。具体的にはモンゴルにて、日本とモンゴル両国の博物館学・博物館の専門家ならびに教育研究者による共同研究会（ミュージアム・クリルタイ）を実施し、従来の〈日本＝研修実施側〉、〈モンゴル＝研修を受ける側〉という図式を超え、互いに研究成果や実践事例を共有しあう、新たな研究協力体制を構築する。

共同研究会のうち1日は、モンゴル全国の博物館と大学の関連部局の若手人材を対象に、被災した博物館・文化遺産の復興支援をテーマとした公開セミナー「災害と文化遺産―東日本大震災の事例から―」を開催する。災害が博物館や文化遺産にもたらす影響、文化遺産の復興支援の意義が、本事業に関連する研究者間のみならず、次世代の研究者にも広く普及・共有され、モンゴルにおいて博物館や文化遺産の災害に備える契機としたい。

また共同研究会には、タイとミャンマーのコーディネーターにも参加してもらい、討論に加わっていただくことで情報と知見の共有をはかる。これにより、本事業終了後、参画した研究者が共同で、アジア独自の博物館学・博物館研究を創出するための共通の基盤をつくる。

これらの研究活動と平行して、次年度はミャンマー、最終年度はタイで開催予定の共同研究会・セミナー実施計画等の協議を進める。

7. 平成24年度研究交流成果

7-1 研究協力体制の構築状況

初年度の平成24年度は、日本とモンゴルにおける博物館・博物館学の比較研究と研究交流を実施した。具体的には、モンゴルのカラコルムとウランバートルにて、共同研究会とセミナーからなるミュージアム会議（ミュージアム・クリルタイ）を開催した。

ミュージアム・クリルタイでは、日本とモンゴル両国の博物館学・博物館の専門家や教育研究者が研究成果や実践事例を発表し討論することで、従来の〈日本＝研修実施側〉、〈モンゴル＝研修を受ける側〉という図式を超えた、互いに研究成果や実践事例を共有しあう新たな研究協力体制を構築することができた。さらには、モンゴル国内の博物館学・博物館の専門家や教育研究者が集まったことで、モンゴル国内における博物館ネットワーク強化に貢献することができた。

7-2 学術面の成果

ミュージアム・クリルタイには、日本とモンゴルの研究者だけでなく、タイとミャンマーのコーディネーターが参加し討論に加わることで情報と知見の共有をはかった。これにより、本事業終了後、参画した研究者が共同で、アジア独自の博物館学・博物館研究を創出するための共通基盤をつくる第一歩がふみだせた。

7-3 若手研究者育成

ミュージアム・クリルタイの最終日は、モンゴル全国の博物館や、大学の関連部局の若手人材を対象とし、被災した博物館・文化遺産の復興支援をテーマとした公開セミナー「災害と文化遺産―東日本大震災の事例から―」を開催した。災害が博物館や文化遺産にもたらす影響、文化遺産の復興支援の意義が、本事業に関連する研究者間のみならず、次世代の研究者にも広く普及・共有され、モンゴルにおいて博物館や文化遺産の災害に備える契機となった。

7-4 その他（社会貢献や独自の目的等）

ミュージアム・クリルタイが契機となり、日本とモンゴル間のこれまでの研究交流の絆が一層強まった。今後、モンゴルで、博物館・博物館学に係わる研究を進めるとともに、若手人材育成をしていくうえで、日本側が協力していくことが再確認された。なお、モンゴル側コーディネーターの Ichinkhorloo LKHAGVASUREN 氏は、平成 25 年度 JSPS 外国人招聘研究者としての採用が決定し、8 月より、日本側拠点機関である国立民族学博物館の外来研究員となる。モンゴルとの共同研究が、より密接に遂行できる環境が整った。

7-5 今後の課題・問題点

タイ、モンゴル、ミャンマーは、それぞれ博物館・博物館学がおかれている文化的・社会的背景が異なる。モンゴルでの経験をふまえて、それぞれの国の状況を鑑みながら、平成 25 年度はミャンマー、平成 26 年度はタイで共同研究会・セミナーを企画、開催する。最終的には、アジアから世界へ、博物館学・博物館に関する研究成果・活動事例を発信し、欧米が主軸になりがちな博物館学・博物館研究に新たな切り口をひらくことを課題としている。本事業が終了した後には、それぞれの国において自立的かつ持続的な博物活動ならびに人材育成が構築されるよう、共同研究会・セミナーを通じて基盤形成に貢献する。

7-6 本研究交流事業により発表された論文

平成 24 年度論文総数	0 本
相手国参加研究者との共著	0 本

8. 平成24年度研究交流実績状況

8-1 共同研究

—研究課題ごとに作成してください。—

整理番号	R-1	研究開始年度	平成 24 年度	研究終了年度	平成 24 年度	
研究課題名	(和文) 日本とモンゴルにおける博物館・博物館学の比較研究 (英文) Comparative studies in museums and museology: Japan and Mongolia					
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) 園田直子・国立民族学博物館・教授 (英文) Naoko SONODA・National Museum of Ethnology・Professor					
相手国側代表者 氏名・所属・職	(英文) Ichinkhorloo LKHAGVASUREN・Mongolian National University of Science and Technology, School of Humanity・Professor					
交流人数 (※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入のこと。)	① 相手国との交流					
	派遣先	日本	タイ	ミャンマー	モンゴル	計
	派遣元	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>
	日本 <人/人日>	実施計画	0/0	0/0	11/99	11/99
		実績	0/0	0/0	11/97 (1/9)	11/97 (1/9)
	タイ <人/人日>	実施計画	0/0	0/0	1/9	1/9
		実績	0/0	0/0	1/9	1/9
	ミャンマー <人/人日>	実施計画	0/0	0/0	1/9	1/9
		実績	0/0	1/5	1/9	2/14
	モンゴル <人/人日>	実施計画	0/0	0/0	0/0	0/0
		実績	0/0	0/0	0/0	0/0
	合計 <人/人日>	実施計画	0/0	0/0	0/0	13/117
		実績	0/0	1/5	0/0	13/117
	② 国内での交流					人/人日
日本側参加者数						
12名	(12-1 日本側参加研究者リストを参照)					
(タイ)側参加者数						
1名	(12-2 相手国(タイ)側参加研究者リストを参照)					
(ミャンマー)側参加者数						
1名	(12-3 相手国(ミャンマー)側参加研究者リストを参照)					
(モンゴル)側参加者数						
13名	(12-4 相手国(モンゴル)側参加研究者リストを参照)					

<p>24年度の研究 交流活動</p>	<p>モンゴルで、共同研究会を実施した。共同研究会のテーマは、博物館学の主要な構成要素である「予防保存」「ドキュメンテーション」「博物館教育・社会連携」とし、それぞれにおいて日本とモンゴル両国の博物館学・博物館の専門家による研究成果や博物館活動の事例の発表で構成し、双方向交流となるようにした。このうち「予防保存」の共同研究会はカラコルム博物館、「ドキュメンテーション」と「博物館教育・社会連携」の共同研究会はウランバートル、モンゴル科学技術大学にての開催である。</p> <p>研究発表後は、テーマ毎に、日本、モンゴル、タイ、ミャンマー、それぞれの国の博物館事情や文化的・社会的背景をもとに、全員でディスカッションを行うことで、情報と知見の共有をはかった。</p> <p>共同研究会の一環として、モンゴルの博物館活動・人材育成の現地調査を行い、研究者ネットワーク構築と共通の基盤形成をはかった。</p>
<p>24年度の研究 交流活動から得 られた成果</p>	<p>モンゴルでの共同研究会開催により、日本とモンゴル間の博物館学・博物館に関わる研究交流が深化され、従来の<日本=研修実施側>、<モンゴル=研修を受ける側>という図式を超え、互いに研究成果や実践事例を共有しあう、新たな研究協力体制を構築できた。</p> <p>タイとミャンマーのコーディネーターが共同研究会に参画することで、情報と知見の共有がはかられ、4か国間のネットワークの基礎ができた。これにより、次年度ミャンマーで開催する共同研究会、最終年度タイで開催予定の共同研究会、それぞれを有機的に連携させることができる。</p> <p>最終年度には、日本で開催する国際シンポジウムにおいて、アジア独自の博物館学・博物館研究を、参画した研究者が共同で創出するための共通基盤の第一歩が形成された。</p>

8-2 セミナー

—実施したセミナーごとに作成してください。—

整理番号	S-1
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業 公開セミナー 「災害と文化遺産—東日本大震災の事例から—」 (英文) JSPS Core-to-Core Program Public Seminar “ The Great East Japan Earthquake and Preservation of Cultural Heritage”
開催期間	平成 24 年 7 月 20 日 ~ 平成 24 年 7 月 20 日 (1 日間)
開催地 (国名、都市名、会場名)	(和文) モンゴル、ウランバートル、モンゴル科学技術大学 (英文) Mongolia, Ulaanbaatar, Mongolian National University of Science and Technology
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 園田直子・国立民族学博物館・教授 (英文) Naoko SONODA・National Museum of Ethnology・Professor
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外で開催の場合)	(英文) Ichinkhorloo LKHAGVASUREN・Mongolian National University of Science and Technology, School of Humanity・Professor

参加者数

派遣先 派遣元	セミナー開催国 (モンゴル)	
	A.	B.
日本 〈人/人日〉	A.	0/0
	B.	11/11
	C.	1/1
タイ 〈人/人日〉	A.	0/0
	B.	1/1
	C.	0/0
ミャンマー 〈人/人日〉	A.	0/0
	B.	1/1
	C.	0/0
モンゴル 〈人/人日〉	A.	0/0
	B.	0/0
	C.	16/16
合計 〈人/人日〉	A.	0/0
	B.	13/13
	C.	17/17

A.セミナー経費から旅費を負担

B.共同研究・研究者交流から旅費を負担

C.本事業経費から旅費を負担しない（参加研究者リストに記載されていない研究者は集計しないでください。）

<p>セミナー開催の目的</p>	<p>平成23年3月11日の東日本大震災は、多くの博物館や文化遺産も被災させた。震災後、どのように有形・無形の文化遺産の復興活動が進められているのか、減災・防災のために震災の記憶をどのように継承すればよいのか、災害からの復興支援活動のひとつの事例として国立民族学博物館の活動を伝える。</p> <p>本セミナーはまた、モンゴル全国の博物館と大学の関連部局の若手人材を対象とする公開セミナーであり、次世代育成という目標を併せ持つ。本事業に直接的に関連する研究者間のみならず、次世代をになう若手の博物館学・博物館の専門家や研究者とともに、災害と文化遺産の関係について考える機会としたい。</p>		
<p>セミナーの成果</p>	<p>本公開セミナーにより、災害が博物館や文化遺産にもたらす影響、文化遺産の復興支援活動の意義が、本事業に関連する研究者間のみならず、次世代研究者にも広く普及、共有された。</p> <p>災害の記憶を継承していくことは、減災・防災を考えるためのステップとなることが共通認識された。本公開セミナーは、モンゴルにおいて、博物館や文化遺産の災害に備える契機となったと期待できる。</p>		
<p>セミナーの運営組織</p>	<p>モンゴル科学技術大学の Ichinkhorloo LKHAGVASUREN、国立民族学博物館の小長谷有紀（モンゴル研究）、園田直子（本事業コーディネーター）が協力して、企画運営した。</p>		
<p>開催経費 分担内容 と金額</p>	<p>日本側</p>	<p>内容 外国旅費 その他</p>	<p>金額 4,565,710 円 305,000 円 合計 4,870,710 円</p>
	<p>(モンゴル) 側</p>	<p>内容 会場提供</p>	
	<p>() 側</p>	<p>内容</p>	

8-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

① 相手国との交流

派遣元 \ 派遣先	日本 〈人／人日〉	タイ 〈人／人日〉	ミャンマー 〈人／人日〉	モンゴル 〈人／人日〉	計 〈人／人日〉
日本 〈人／人日〉		0/0	3/34	0/0	3/34
タイ 〈人／人日〉	0/0		0/0	0/0	0/0
ミャンマー 〈人／人日〉	0/0	0/0		0/0	0/0
モンゴル 〈人／人日〉	0/0	0/0	0/0		0/0
合計 〈人／人日〉	0/0	0/0	2/18	0/0	3/34
② 国内での交流 3人／10人日					

所属・職名 派遣者名	派遣・受入先 (国・都市・機関)	派遣期間	用務・目的等
モンゴル科学技術 大学・教授・ Ichinkhorloo LKHAGVASUREN	日本・大阪・ 国立民族学 博物館	2012年4月4 日、6日、9 日～12日、 16日、17日	初年度のモンゴルでの共同研究会・セミ ナー実施計画等の協議
滋賀県立琵琶湖 博物館・専門学 芸員・楠岡泰	日本・大阪・ 国立民族学 博物館	2012年4月 17日	初年度のモンゴルでの共同研究会・セミ ナーに関する研究打ち合わせ
愛知県立芸術大 学・客員教授・ 森田恒之	日本・大阪・ 国立民族学 博物館	2012年4月 17日	初年度のモンゴルでの共同研究会・セミ ナーに関する研究打ち合わせ
国立民族学博物 館・教授・ 園田直子	ミャンマー ・ネーピー ドー・文化省 ほか	2013年2月 20日～2月 28日	次年度のミャンマーでの共同研究会・セ ミナー実施計画等の協議
国立民族学博物 館・教授・ 田村克己	ミャンマー ・ネーピー ドー・文化省 ほか	2013年2月 20日～2月 28日	次年度のミャンマーでの共同研究会・セ ミナー実施計画等の協議

大阪大学大学院 人間科学研究 科・博士後期課 程3年・山本文 子	ミャンマー・ネー ピードー・文化省 ほか	2013年2月 16日～3月3 日	次年度のミャンマーでの共同研究会・セ ミナー実施計画等の協議
--	----------------------------	-------------------------	-----------------------------------

9. 平成24年度研究交流実績総人数・人日数

9-1 相手国との交流実績

派遣先		日本	タイ	ミャンマー	モンゴル	合計
派遣元		<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>	<人/人日>
日本 <人/人日>	実施計画		2/6	2/8	11/99	15/113
	実績		0/0	3/34	11/97 (1/9)	14/131
タイ <人/人日>	実施計画	0/0		0/0	1/9	1/9
	実績	0/0		0/0	1/9	1/9
ミャンマー <人/人日>	実施計画	0/0	0/0		1/9	1/9
	実績	0/0	1/5		1/9	2/14
モンゴル <人/人日>	実施計画	1/3	0/0	0/0		1/3
	実績	0/0	0/0	0/0		0/0
合計 <人/人日>	実施計画	1/3	2/6	2/8	13/117	18/134
	実績	0/0	1/5	3/34	13/115	17/154

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流した人数・人日数を記載してください。(なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。)

※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。(合計欄は()をのぞいた人数・人日数としてください。)

9-2 国内での交流実績

実施計画	実績
4 / 4 <人/人日>	3 / 10 <人/人日>

10. 平成24年度経費使用総額

(単位 円)

	経費内訳	金額	備考
研究交流経費	国内旅費	30,681 円	
	外国旅費	5,442,761 円	
	謝金	275,000 円	
	備品・消耗品購入費	82,059 円	
	その他経費	0 円	
	外国旅費・謝金等に 係る消費税	279,499 円	
	計	6,110,000 円	
委託手数料		610,000 円	
合 計		6,720,000 円	

11. 四半期毎の経費使用額及び交流実績

	経費使用額 (円)	交流人数<人/人日>
第1四半期	30,681 円	3 / 10
第2四半期	4,870,710 円	14 / 120
第3四半期	52,059 円	0 / 0
第4四半期	1,156,550 円	3 / 34
計	6,110,000 円	20 / 164